

第4分科会

地域資源として 「まち」を活かす

～「まちの駅」を活用した地域づくり～

担当団体／まちの駅つるぎ推進協議会

白山市の鶴来地区では、地域資源を活用したウォークを6年前から実施している。今回はウォークで蓄積したノウハウを使って、参加者のみなさんに地域に点在する「まちの駅」や街並みのコースを体験してもらう。体験後、白山市鶴来と福井県勝山市の「まちの駅」関係者から、地域資源を活用した取り組みについて話をうかがう。

パネリスト

谷出 雅博 氏 (たにで まさひろ)
福井県勝山市まちの駅連絡協議会事務局

山守 保裕 氏 (やまもり やすひろ)
白山市鶴来まちの駅つるぎ推進協議会 会長

コーディネーター

谷本 互 氏 (たにもと わたる)
(財)地域総合研究所 常勤理事・主任研究員
石川地域づくり協会コーディネーター

インストラクター

辻 貴弘 氏 (つじ たかひろ)
白山市鶴来まちの駅つるぎ推進協議会 事務局次長

まちの駅つるぎ推進協議会

まちの駅つるぎは平成19年に発足。公共施設を含め現在45の加盟者がいます。鶴来の夢のある地域づくりを目指し、さまざまな分野で頑張っています。ぜひ視察にきてください。

<http://osisi.jp/>

1. 分科会の趣旨

鶴来地区では、地域資源（特に商店街）を活用したまちなか巡りを6年前から実施している。分科会参加者に、地域に点在する「まちの駅」や街並みのコース巡りを体験してもらい、体験後、白山市鶴来と福井県勝山市の「まちの駅」関係者から、地域資源を活用した取り組みについて話を伺う。

2. パネリストによる活動事例紹介

(1) 福井県勝山市まちの駅・谷出 雅博氏

市内商店街の衰退、後継者難でまち全体を博物館にする構想、平泉寺や恐竜博物館などで集客。

しかしまちなかに人通りがない。そこで地域の食文化を発掘し、サバのなれ鮎を商品化した。これがヒットし採算も取れている。トイレに酒石けんを置くなどの取り組みを行い、勝山の特色を出している。

また地域の歴史漫画本を発刊し、地域をよく知ってもらう取り組みもしている。

このような環境の中で、行政主導でまちの駅加盟のプランができた。地域ネットワーク拠点として、また情報と人が集まるシステムとして「まちの駅」には期待が大きい。

同時に観光客が来る魅力と利便性を提供し、観光スポットからまちなかへ人の流れを作りたい。

また駅を通じてまちのリーダーとなる人材の育成にも繋げたい。

(2) 白山市まちの駅つるぎ・山守 保裕氏

昨年国の全国展開支援事業にて鶴来のまちの駅事業が採択された。800万円予算の一部でパンフレットやホームページを作った。観光ガイド団体のNPO法人（加賀白山ようござった）とも連携し、地場産業の商品説明を行うことで実際の購買行動に繋がった。この方式が活動の根幹をなしている。活動を通じて地元のカネが落ちる仕組み。

鶴来はもともと醸造が盛んだが、4年前に経済特区に申請したどぶろく特区では、通年どぶろくが楽しめる。現在は2事業所がつくっている。これは町おこしのでこになり、鶴来観光協会での鶴来四季物語観光ツアーに発展していった。

鶴来まちの駅は平成19年11月末にスタートした。700以上の商工会員に呼びかけ、45事業所が参加した。45の中には支所や公民館など公的な機関もある。特色は、これまでの商工業者の枠内ではなくボーダーレスで活動推進している点で、建設金融商工業を含む。全鶴来で活動推進してきた。

(活動例)

- バスツアーや縁結びツアー、まちのミニイベントをまちの駅ネットワークで開催してきている。
- 販促事例としてパスポートの発行：500円で購入すると、特典あり。北鉄の乗車券やゴンドラの優待券も付いていて好評。
- 鶴来逸品カタログ制作：白山比咩神社認定商品を一覧できるおみやげ商品カタログを作った。
- 旅行社からも注目されつつあり、日本旅行の「ジパング倶楽部」で40万人会員に鶴来が取り上げられた。
この効果で週末には来客が増えた。
- 第4回加賀白山おったから祭りでは、県内外から観光客が来町した。同時に行われていた白山比咩神社御鎮座2100年式年大祭では全国の白山神社の末社が来訪、奉納演芸なども開催された。まちの駅も協賛でイベントや物販を行った。

(3) コーディネーター・谷本 互からの提言

最近まちの駅活動に追い風が吹いてきたのではないかと。自動車社会の進展でバイパスと中心市街地との関係の見直し機運があり、関心を寄せてきつつあるように思う。鶴来にはまちなかの面白い歴史があって、まちの多面

性があることがわかる。これらがまちの駅によって、より鮮明にわかる。鶴来なら金物屋が多い、お菓子も発酵食品も多い。それらがまちの彩りをなしていて、普段は何気なく見過ごしてきたその彩りを、まちの駅は明確に打ち出せるシステムだと思う。

観光面でも従来型のスポット訪問型から町歩きに関心が移っている。駅のシステムに対する目的や期待はあるが、プロセスや付加価値を追求する、ひとつの事業としての面白さが町の駅にあるし、ひとの面白さがある。

鶴来では駅ネットワークに若手や中核の人材が多く、後継者が育成されつつある。これらの人材が地域づくりの戦力になっていくものと思う。

3. 質疑応答

【平井】 中能登では商店街らしいところがなく、条件的には徒歩での移動手段が難しい。実現にはどんな方法があるのか。

行政の主導や予算面でのバックアップが必要だと思う。人づくりのノウハウがあれば教えてほしい。

【辻】 中能登は大型商業施設が中心で商店街がほとんど見られないが、移動手段は大きな障害にならない。

地域の旅館のバスの送迎途中に観光案内するなど、手段はある。地域の魅力の再発掘が重要。加賀市なども車移動が中心だが、動橋の造り酒屋などは人気がある。

【谷出】 勝山の例では駅の看板類やツールは行政負担。旅費研修費を負担するなど援助はある。

来年は掲示板などのハードの他ソフトの体制づくり、人づくりのサポートもしなければいけない。

【谷本】 人づくりは事業を推進しながら、経験させていく。情報も共有し、家業に生かしていくこと。これらのことを繰り返すと自然に育成される。

鶴来まちの駅巡り（午前）



まちの駅巡りブリーフィング



七か用水の説明



まちの駅看板例



鶴来打ち刃物 太田一鉄



道路拡張工事と景観維持



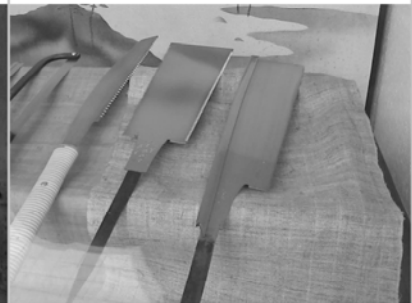
金名線開発の小堀家



獅子吼高原開発



鶴来とたばこ産業



池田徳平のこぎり



鶴来の菓子



水車遺構について



大屋醤油

【山守】鶴来のなになが、外から見て魅力なのか、20年前に保有資源調査を行った。当時は100項目以上あがったが、凝縮してこれが宝だと気づいた。人づくりもおなじ、魅力を発掘、勉強することで育成されるし、そこからの目も絶対に必要。外部に出た人間が戻ってくる魅力がまちにないと難しいのでは？

【東】後継者づくりの問題は、商売がうまくいかなければ後継問題もない。

【西山】中心商店街の衰退は時代の趨勢、鶴来商工会としても個々の店舗の力をつけてもらうことを考えている。兵庫県の篠山では黒豆収穫時期、黒豆を買う人たちがたくさん歩いている。狭い道も見方によれば利点がある。来町者はシルバーの客層が中心、収穫時期なので豆を買いにきているが、そばを買う人たちも多い。鶴来への展開では従来連携の薄かった農協との協働も考えられる。

【福田】10年前に舞茸生産を始めた。拡販にはチラシや広告はいっさい行わない。よい商品作りに専念してきた。今は口コミで客も増えた。ハチバンや老人ホームや病院なども注文がある。後継者の問題もあるが、商売が切り替わっても、親が利益を出さないと後継者が出てこない。

おはぎ屋でも舞茸を扱っているが、ご飯が黒くならないと好評、まちの駅は消費者の声が直に聞ける。

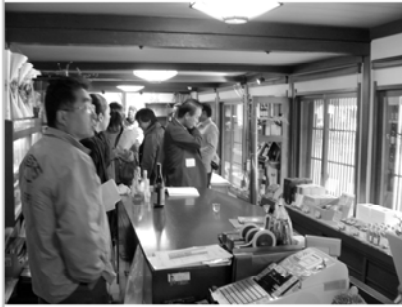
【辻】観光客の立場では、見ず知らずの商店に入るのは勇気が要る。それが、他の駅でひとことその商品を紹介してくれるだけで購買に結びつくこともある。お互いに持ちつ持たれつの関係である。富士市では石材加工会社で駅を設置した。単純な町巡りの利便提供だったが、意外なことに墓石の注文が数件入った。これから見ても、商売が目的で駅に加盟してもうまくいかない。駅設置でひとの繋がりができると、その結果として商売に結びつくのであって、誤解がないようにしないといけない。

【谷出】まちの駅への集客懸念もあるが、集客は行政の仕事で、来たお客さんへの対応は駅の仕事だろう。そこで収益を上げてくれれば良い。休める場所の提供、車で来て降りて歩いてみようという気になるまちにしたい。ちょっとした買い物の楽しみも古い商店で提供したい。まちなかに居酒屋などもできれば若い人も戻ってくる。呼び込む努力を。勝山全体イメージをアップさせたい。鶴来は先進地との位置づけなので、今後とも交流していきたい。

【山守】駅の目的はオンリーワンの追求。比較しようのないものが土地の魅力。放置すれば無くなるものだが、残さなければならぬもの、守らなければいけないものを守っていく、これがまちの魅力づくりになる。利益もつながるが、利益追求が目的だと、変わっていく。土地を好きな者が守っていく。これがまちの元気になればよい。

【谷本】駅相互のネットワークも肝心だが、まちの駅の中で繋がっているかも大切。となりの商店の売り物は何か、など紹介しあえるような双方向の関係が望ましい。商店街のあり方も、これからはプラスアルファの要素が大切になっている。本業以外の商品売るなど応用が肝心。和物洋物の混在：鶴来も和物だけでなくラーメンやケーキのおいしい店もある。これらが刺激になり町の面白さにつながるのだろう。ガイドの内容：単なる観光案内にとどまらず、まちの歴史とエピソードの豊富な蓄積が大切。

鶴来まちの駅巡り（午後）



小堀酒造店



町家のパン屋



麴商店



なべやミニギャラリー



うらら館土蔵



うらら館抹茶接待



本町裏の土蔵



伝統建築



裏通りを歩く



映画の舞台



金劔宮表参道



鶴来支所前

第4分科会 参加者アンケート【参加者：27、アンケート協力者：18】

■分科会を選んだ理由

- ・会場が鶴来なので
- ・ソフトが面白そうだった
- ・中能登町おこしが上手くされていないため
- ・まちの駅を通して、どのように地域の活性化を図っているのか知りたかった
- ・地元商工人は何が望みか知りたかった。町の将来像
- ・地域づくりが大切であるため
- ・まちの駅の運営に携わっているため
- ・知人につれられて
- ・鶴来のまちの駅に興味があったから
- ・鶴来の町をみてみたかったため
- ・町づくりの参考としたいため

■分科会はいかがでしたか？

- ・つるぎのまちの駅の内容を少し理解できた
- ・他町の方の意見が聞けて良かった
- ・いろいろ参考になり、活性化の参考にしたい
- ・地域の特性、歴史性を活かした町づくりについて学べた
- ・知らないことがいろいろ知ることができて良かった。座談会は男の方が多くひいた
- ・さまざまな意見が聞けて良かった
- ・大変参考になった
- ・街づくりに積極的だと思った
- ・町めぐりで町の財産（地域資源）の発掘の面白さがあった
- ・まちの駅という名称をはじめて知り、真剣に取り組んでいる人の想いを聞くことができた
- ・いろいろな地域の現状が聞けて良かった
- ・事業の内容が理解できた
- ・「まちの駅」の話が中心とは知らなかった
- ・活発な討論ができた

